

○7番（石川信雄） これも時代とともに意識の変化ですとか、認識、自分はそう思っていないくても相手はそう捉えてしまったとか、そういった問題もありますので、年に1回程度の研修は必要かと考えますけれども、そういった研修をするご予定はありますでしょうか。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） 長い目で見れば確かに研修というのは必要でございますが、研修も含めまして、日常の中でいろいろな要綱に沿って行ってまいりたいと思っています。

○議長（清水満） 石川議員。

○7番（石川信雄） それでは、職員も飯綱町の宝と考えておりますので、是非そういったことにも気配りいただきまして、お願いしたいと思います。

以上をもちまして私の質問を終わりとします。

○議長（清水満） 石川信雄議員、ご苦勞様でした。

これより暫時休憩に入ります。再開は10時10分とします。

休憩 午前 9時56分

再開 午前10時10分

---

◇ 原 田 重 美

○議長（清水満） それでは休憩前に引き続き会議を再開します。一般質問を続けます。

発言順位2番、議席番号13番、原田重美議員を指名します。原田重美議員。

〔13番 原田重美 登壇〕

○13番（原田重美） それでは、通告にほぼ従いまして質問をさせていただきます。

まず1番目のスキー場譲渡に伴う飯綱東高原の新たな観光開発についてという項目であります。私が質問通告を出した時点というのは5月の初めでして、だいぶその間に交渉もいろいろなかたちで変わってきて、いろいろな流れが出ているということで、私もどんな企業が、どんな資本力の事業者が何をやろうとしているかなど、全く分からないまま質問させていただきます。

ますけれども、気になっている交渉過程で、どんなふうになっているかというようなことを質問させていただきますので、ニュアンスが若干変わっているかと思いますが、よろしく願いいたします。また、スキー場問題がどうなるかというのは町民の大きな関心事でありますので、答弁は町民に説明するというつもりで、町長お願いをしたいと思っております。

スキー場問題は、昭和56年に三セクでスタートしたリゾートスキー場であります。弱小スキー場の宿命を背負って厳しい経営の連続であったというものです。三セク会社の破綻、そして8億円の損失補償という苦い経験をする中で、とにかく紆余曲折の運営だったわけですが、ごく近くの時点から申し上げれば、町民有志が立ち上げた合同会社、これが頑張ってくれまして、何とか存続できないかという私らの思いを持って伝えてくれまして、頑張ってくれました。

しかし、27年の想定外の雪不足と資金不足もあって、合同会社は事実上立ち往生、存続の危機に陥ったわけでございます。しかし、峯村町長はこんな中であって、際限ない町負担はできない、こういうことを背景に認識をされまして、スキー場の完全民営化、これを決断し、実現できない場合は、来シーズンからの閉鎖ということで、現在ゴルフ場を含めた公有財産の民間売却に向けて作業を進めておられると認識しています。

私も、再三の一般質問、あるいは全協等の論議を通じて存続の道は何かあるのか、どういう手法があるのかということを考えてきたつもりですが、来期のスキー場運営、あるいは観光事業の立て直しのために、今の流れ、町長の取組ということに関しては、基本的にこれを理解し、現在の交渉の成功を期待しているところでございます。

基本的には私もそういうことは、かねがね表明してきているものでございますので、現在、民間譲渡の流れは、公募による7月の事業者の決定、10月の契約、引渡へほぼ順調に進んでいるものと認識しておりますが、まずこれらを前提に、大きな意味での観光、スキー場、そして夏場観光含めて新たな時代を迎えようとしている東高原の観光の姿、発展的構想をどのように町長は描き、実践されようとしているか、その辺の大枠をまずお話ししたいと思っております。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） お答えを申し上げます。スキー場問題につきましては、間もなく今月中旬ぐらいから公募をスタートしたいと、そんなスケジュールで今進んでおります。1社か2社か、複数のところが名乗り出て欲しいと思っておりますけれども、やはり事前にお話を伺う状況の中では、最初のスタートは良い場所だし、何とか我が社もスキー場経営に乗り出したいですねというお話を、だいたいの皆さんはしていただくわけですが、そのうちに最終的にこのスキー場で収益が上がるのかどうか、また向こう5年、10年でどういう大規模修繕、設備投資が必要になるのか、最低でも現状としていくら投資しなければスキー場として運営していけないのか等々の話になってきますと、非常に厳しい状況というのが出てくる。それが今までの経過であり、今回もやはり若干そういう雰囲気が出てまいっております。そんな中で、こちらの熱意を何とか通じさせて、スキー場経営に乗り出していきたいと強く思っております。

今、担当課で本当に諸々のデータを用意しながら、皆さんの要望に対して町がどの程度まで対応できるか、そんなことも検討させているわけですが、基本的にもうNOだよと言っているのは、町はお金を出すことはできません。これは残念ながら1番の大原則でございます。その瞬間、半分以上のお客さんは逃げていくわけでございますけれども、これは今までの苦い経験の中から、町としてスキー場にお金を投資していくのは住民の理解が得られないという判断の下に実施をしてきております。

あと、その他にどんなことができるかということを含めながら努力しているわけですが、まず、民営化が正式に達成できるように今最善の努力をしておりますので、それが済んだ後に冬はスキー場、夏はどうするというような意味で、東高原全体をどのような観光地としてレベルアップしていくか、そこら辺を検討したいと思っております。

後ほど、議員のお話の中にも出てきますので、その中でもまた申し上げたいと思っておりますが、私、東高原だけが飯綱町の観光資源ということではなくて、昨日も総務省の政務官をお連れして、夕方にサンクゼールで時間を過ごす時があったわけですが、そこから見るあの里山の風景というものは、ただただ本当に素晴らしい、この景色を前にしていかなる祝辞や言葉も意

味のないものに聞こえますということを書いていらっしゃいました。私どもは、そういう食、景色、里山の風景というものを、飯綱町の大きな観光資源としてこれからも捉えていく必要があるだろうと考えています。

○議長（清水満） 原田議員。

○13番（原田重美） 最後の方でお聞きしようと思っていたわけですが、全体的な飯綱町の東高原を中心にした観光のあり方というのは、実は昨年11月にエリア研究会の報告書も出ているわけですが、これは自然環境、歴史的資源、里山農業の活用からもてなしの心、これらを意識、再活用した癒やしのエリア実現と、こういうかたちでの提言が出ております。これらとも連携させていくという考え方でよろしいでしょうか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） それは全くその方向で一緒にやっというつもりでおります。

○議長（清水満） 原田議員。

○13番（原田重美） 大枠につきましては、とりあえず後でまた中でも出てくるかと思いますが、次に質問の項目を先へ進めますけれども、まだ、いわゆる公募前の段階であります。譲渡を受けようとしているいくつかの企業があると思われるわけですが、高原のエリアでスキー場以外も含めてどんな事業を展開しようとしているか。これについて非常に大きな関心を持っております。企業側の事業構想にはどのようなものがあるのか。町は何を求めて要望しているか。これらについて町長いかがでしょうか。どんな進み方。担当課でも結構です。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） それではお答えいたします。これから公募を始めるところでございますので、今は意向表明を出していただいた数社の候補者と、いろいろ町の方で交渉をしているところでございます。

その会社が必ず応募してくるかどうかということには分かりませんが、数社の候補者と交渉

した中で、まず共通して言えることについてご答弁させていただきますと、候補者の方はまずは安全を担保したスキー場運営を基本に考えているようでございます。そして、スキーシーズンの利用だけでなく、グリーンシーズンを含めたオールシーズン型の集客を目指していきたいというお話を聞いております。

また、スキー場等につきましても、スキー場単独の再生とか開発ではなく、先ほど町長からもありましたが、全町的に周辺施設等と連携を図りながら、観光人口の増加を図ったり、また雇用創出を図ったり、そういったことをすることでスキー場の再生と地域貢献を目指していきたいというお話を聞いているところでございます。

具体的にこれから町は公募を受けまして、候補者から利用計画書というものを提出していただくわけですが、そのところで詳細な応募者の考え方が分かってくるのではないかと考えております。町として何を求め、要望していくかといったことにつきましては、基本的にはスキー場の活性化ではございますが、それだけではなく、地域一帯の賑わいの創出や地域経済の活性化、そういったものを町としては望んでいるところでございます。以上でございます。

○議長（清水満） 原田議員。

○13番（原田重美） 現在の交渉状況、まず安全運営から始まって、町全体の資源活用による地域貢献を目指すという流れで、これは町の全体的な構想とマッチするものだと思いますが、町長そういう認識でよろしいでしょうか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 前にも申し上げたわけですがけれども、観光事業というのは、毎年毎年一定の設備投資やリニューアルをしていくという目新しさを出すことが非常に大事な事業になりますもので、そういう意味でも民営の資本力のある、企画力のある、集客力のあるところが中心になって動いていただくというのは、町の方針とも一致するものだと思っております。

○議長（清水満） 原田議員。

○13番（原田重美） 分かりました。それでは次に移りますが、よくあることですが、民営化で買ってはくれたもののいつの間にか消えてしまった、これが一番怖い問題なわけです。各地にもそういうケースがありました。将来的な経営継続へ信頼できる企業を選定していくことが、非常に大事なことだと思います。そのためのきちんとした担保を遠慮なく今交渉している企業、あるいはこれから公募できた企業に町の考えとなるものを要求し、そのことの確認を取っていくという交渉をしていってもらうことが大事なので、この辺については現在どんなかたちで行っているか、考え方も含めてお願いします。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） それではお答えします。まず、飯綱町の財務規則におきまして、普通財産を譲渡する時は、利用用途及び利用用途に供しなければならない期間を指定するということになっております。その期間につきましては、減額しない譲渡の場合は5年を下らない期間ということで規則に定められているところでございます。

いづなりリゾートスキー場の利用用途につきましては、町としてはスキー場事業、飯綱高原ゴルフコースの利用用途につきましては、ゴルフ場事業として公募をいたします。また、買受人につきましては、一定期間はこのスキー場事業、ゴルフ場事業、その利用用途の変更はできない等の制限を加えて公募をしていく予定でございます。

また、応募者の中から、長期間にわたって安心して任せられるような資本力のある企業と売買契約を締結したいと考えております。公募の際は応募者の財務状況とか、あと事業計画の際の資金計画とか、そういったものをきちんと提出をしていただいて、しっかりと企業の財政状況等々も確認をしてまいりたいと思っております。

町といたしましては、議員が懸念されているとおり、長期間の経営を担保できるような情報を、可能な限り契約の中に盛り込んでいくように進めてまいりたいと考えております。

○議長（清水満） 原田議員。

○13番（原田重美） 先ほど町長も現在の交渉の中で、最初は事業者もこれはいいぞと言って飛

び付いてきてくれたけれども、やはり今になっているいろいろ詰めていくと、企業側としても本当に大丈夫か、収益が上がるか、あるいは投資額はどのくらい掛かってしまうのかと、こういう問題が浮上しているということですが、この辺については心配ないでしょうか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 心配がないと言えば嘘になってしまいますけれども、そういう心配を一つ一つ整理をして、納得をしていただくという方向に今事務当局と私どもと一緒に説明をする、または今後の町の考え方みたいなものをお示しする中でご理解をいただくように精一杯努力しているところでございます。

○議長（清水満） 原田議員。

○13番（原田重美） それでは先へ進めますが、この問題で答えとしてもらえるかどうかということもありますが、譲渡価格について、この譲渡価格の交渉というのものなかなか厳しいものがあるのではないかと私も推察しております。

それというのは、やはり企業側の買手市場であり、町は積極的に強がりで行くわけにいかない交渉なのではないかと思うわけです。様々な状況があり、要素が絡んでくる。例えば、譲渡した場合には、リフトは民間で面倒を見ていくという問題もプラス面としてある。メリットと言いますか。それから大きな固定資産税の収入というものも期待できる。いろいろなかたちでの相殺などというようなことも入ってくると思います。

しかしながら、公有財産の売却処分ですから、今世間をだいぶ騒がせております森友の話のようなものは私らのところではないと思いますけれども、不当な処分ということにならないことをきちんと意識していくことが必要でしょう。当然、不動産鑑定に基づく交渉が進んでいると思いますが、スキー場以外を含めて、譲渡範囲と最低価格設定に向けて、どんなものをどのように売却していくという、その点についてお聞きしたいと思います。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕

○産業観光課長（土屋龍彦） それではお答えいたします。まず、どのようなものを売却するかという売却物件でございますが、基本的にはスキー場及びゴルフ場の町有財産を売却する予定でございます。そして、この売却物件を一覧にいたしまして公募を掛ける予定でございます。

具体的なスキー場に関わる売却物件でございますが、土地が13筆、面積が7万2,356.5平方メートルでございます。建物につきましては、12棟、建築面積が2,096.3平方メートルでございます。あと、索道施設の備品一式でございます。

ゴルフ場に関わる売却物件でございますが、土地が11筆、面積が24万8,639平方メートル、建物が9棟、建築面積が1,951.03平方メートル、備品一式でございます。

それで、この売却価格でございますが、まず町の普通財産譲渡の町の基本的な考え方でございますが、現状の価値に見合った価格で譲渡するというのが町の基本的な考えでありますので、スキー場及びゴルフ場の売却につきましても同様の考えで進めてまいりたいと考えております。

最低売却価格の基本となる譲渡予定価格でございますが、これにつきましては先ほど議員からお話があったとおり、不動産鑑定士による鑑定評価額や今後の索道施設の修繕費等の様々な要素を勘案しながら、飯綱町町有財産評価委員会が決定をすることになります。町は適正な最低売却価格を定めることで、スキー場事業の存続に向けて最大限努力をしてまいりたいと考えております。

○議長（清水満） 原田議員。

○13番（原田重美） ゴルフ場については、オーガニックが約束期限前に手放さざるを得ないということになるかと思いますが、この辺についてはオーガニックとはきちんと話ができるのかどうか。

また、オーガニックはこのスキー場の新たな展開について、連携していろいろやっていこうという意識もきちんと持っておられるかどうか、その辺をお聞きしたい。

○議長（清水満） 土屋産業観光課長。

〔産業観光課長 土屋龍彦 登壇〕



○産業観光課長（土屋龍彦） それではお答えいたします。まず、オーガニックにつきましては、指定管理期間内にゴルフ場を手放していただくこととなりますので、町とオーガニックリゾートと交渉を行っている、話合いをしているところでございます。

具体的には、オーガニックにつきましても、このスキー場事業の存続に向けての町の考え方に同意をいただいております、細かな金銭的な補償と言いますか、今オーガニックリゾートからいただいている管理運営納付金、その金額につきましては、これから調整をしていくところでございますが、大枠については同意をいただいているところでございます。

また、本当にスキー場、ゴルフ場、そして天狗の館、飯綱東高原一帯の施設というのは、全て一体的なものでございますので、これにつきましてもオーガニックリゾートは、これからスキー場、ゴルフ場の施設とも連携を図っていくといった意識は持っていただいていると町としては感じているところでございます。以上です。

○議長（清水満） 原田議員。

○13番（原田重美） あそこでオーガニックは温泉、それから観光施設の管理等をやってもらって、もう1つの事業者である飯綱東高原の合同会社は、数年前に地元の皆さんが立ち上げて、彼らの努力があって今まで継続され、経済効果もあり、食材の調達や雇用など、これらの問題も引き受けてきてくれたことに対して、本当に敬意を私は持っているわけでございます。

しかし、残念ながら資本力のない企業ということで駄目になりそうだけれども、合同会社に対する今後について、町長はどうお考えを持っておられるかお聞きしておきたい。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 東高原合同会社は、スキー場経営を実施してきたわけでございますけれど、基本的には民間の会社でございますので、行政として支援をしていくという具体的な支援策というのはなかなか難しいと思っておりますけれども、ただ今回のスキー場の譲渡という、民営化というものに絡める中で、例えば新しくスキー場経営に乗り出してくれる会社等の傘下に入るとか、または今まで合同会社が抱えてきたそれぞれの資産、これは圧雪車やスノーマシン等々

の財産、資産について、新しいところで一定の評価をして買い上げてくれるとか、または今後は合同会社としての経営にはならないけれども、従業員が現場の作業にあたるような役割を果たしていくとか、いろいろなやり方があると思っていますけれども、新しく受けてくれる会社が決まった時点で、合同会社については特に何とか新しい会社と新たな提携ができないものか、一生懸命相談に乗っていきたいと思っています。

○議長（清水満） 原田議員。

○13番（原田重美） 是非、合同会社の意向もあるわけですがけれども、そういう流れで進んでいくことを強く希望しておきたいと思います。

そして、いわゆる雇用問題とか、地元食材活用など、受け手の事業者と連携していってもらうことが大事だと思いますので、その辺も十分留意して行って欲しいと思います。それらを含めて、この流れが頓挫することなく進んでもらいたいというのが今の私の気持ちですがけれども、今後、引受け手になる事業者を中心にオーガニックリゾート、あるいは地元のペンションの皆さん、あるいは観光協会、これらの諸団体、事業者、地元の関係、観光業者が折に触れて協議をしていくという場も今後の発展的構想の中では、大変大事なことではないかと思っています。そういう中でビジョンを語り合っていく。まだ、事業者も決まらないという流れですがけれども、そういうものにもきちんと意識をして進めていってほしいと思っています。町長、いかがでしょう。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） おっしゃるとおりだと思います。先般、長野市さんの飯綱高原スキー場が信濃毎日新聞のトップで、来シーズンからは民営化を考えたいとありました。文面から推測しますと、かなり民営化というのは厳しい方向にあるということをお知らせする記事の内容でありましたけれども、あそこはあそこの地域の観光協会とか、宿泊の皆さんとかがいろいろ集まって相談する中で、グリーンシーズンへのシフトの移行というものも、地元からの希望として出ていたようでございます。

私どもも、そういう意味では従来からやってはきているわけですが、今の合同会社、そしてオーガニック、観光協会、宿泊関係の皆さん等々の、やはり懇談会と言いますか、そういうものは必要だろうと思っておりますので、極力相手ははっきりした時点で開催をしていきたいと思っております。

○議長（清水満） 原田議員。

○13番（原田重美） 今、長野市の例の話が出たわけですが、私もオリンピックの時には、モーグル関係の取材を盛んにやらされた経験があるわけですが、残念ながら売却という流れで、長野市もよく1億円もの投資をしながら続けてきたと思いますが、なかなか先が見えないという状況は飯綱町と変わらないと思います。むしろ、長野市も飯綱町のこの手法がかなり刺激になったのではないかという思いがしないでもないくらいではありますが、このスキー場売却、そしてそれに変わるか、それに基づく全体の東高原エリアの発展的イメージが生まれていくように期待しながら、この質問は終わりたいと思います。

それでは、次に役場庁舎建設構想の見直しについて質問をしたいと思っております。これにつきましては同僚の石川議員の方から各方面にわたっていろいろな質問があり、それに答えてもらっていますので、ほとんどだぶってしまうということで、かなり省略させていただきます。

ただし、私が感じているのは、旧役場庁舎、この現庁舎に逆L字と言いますか、そのような建物を継ぎ足しにして、それで旧庁舎のことは全く考えていなかったのではないかと思っています。この辺のところに基本設計の問題、ボタンの掛け違いが少しあるような気がしております。

先ほどの質問で、基本設計もこれから、何をしていくかというのはこれからだということで、旧庁舎についても守るべきものは守っていくというような、基本的なあれがあるということですが、当面、あまり無理をしないで、先ほど合併特例債の話もありましたけれども、37年まで5年延びるわけで、財源的にもとりあえず、今年は30年ですから7年ほど余裕があるという意味で、変更をして、あまり慌てないで、じっくりと基本設計から取り組み直して欲しいと思っています。

その場合に建設費用に限界がありますし、場所的にも非常に難しい問題があるのですが、旧庁舎の保存活用を求める町民の声もかなり聞こえてきます。そうではない声もある。しかしながら、飯綱町の旧庁舎は昭和 11 年に建てられたもので、歴史的価値というものは、やはり無視できないものがあるのではないかと思います。これを残していくということになると、大変いろいろな難しい問題もあるでしょうけれども、私も石川議員の主催した会議にも出席させてもらいまして、学芸員からもあの庁舎に対するいろいろな使い方の変遷について説明あったわけだけれども、それ以上のことは言えません。あまり町の方針がきちんと旧庁舎について出てないから言えない。非常に遠慮したしゃべり方をしていました。

旧庁舎は、信大の土本先生の調査を受けた中で、土本先生はいわゆるモダン建築として非常に価値あるものであると言われていています。モダニズム建築でしょうか、この流れをくむ建築として価値があるという話もお聞きしているわけですが、これについては町長も基本的にその辺はしっかり見直しの中に入れていくという姿勢があるかどうか。それだけ聞いておきたいと思っています。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 石川議員の時にも答弁をさせていただきましたけれども、方向は一定の期間を設けて、これからいろいろ研究していきたいと思っています。その研究の結果、検討の結果として、保存をしていった方がよろしいという意見がほとんどだとなれば、それなりの予算措置をしていきたいと思っています。

○議長（清水満） 原田議員。

○13 番（原田重美） この項目では最後になりますけれども、旧庁舎の文化的価値、これがあるのか無いのかということも、やはり検討しなければならないと思います。無いという意見も専門家の間から出てくる可能性もある。これらのことを含めて、保存した場合の費用とか、これらを再調査した上で、全体構想について住民との意見交換をして欲しいと思います。

そうはいつでも 10 億円という大きな事業費が想定されているわけですから、これらをやって

くと10億で済むのかどうかという問題もありますから、これらを含めて全体の意見交換により住民にしっかり問う。再調査の上、住民の意見を問う。これをしっかりやってもらいたと思います。よろしいでしょうか。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） その方向で十分に研究していきたいと思っています。

○議長（清水満） 原田議員。

○13番（原田重美） それでは3番目の質問、時間が無かったら次回に回そうかと思っていたわけですが、少し時間がありますので3番目の議会からの政策要望に対する回答について質問します。

少子高齢化による地域の機能、活力の低下、住民の安心・安全の生活、これらが様々なかたちで脅かされる時代に入っていることは、もう皆さんご承知のとおりでございます。そうした中で、30年度予算政策要望におきましては、議会は地域再生の施策充実を求めたところがございます。

これに対して、町は新しいコミュニティ組織となる仮称地域協議会の創設を目指すという回答をもらっております。これが、区・組との関連を含めて、どんな組織と人員体制、事業展開を想定されているのかお聞きします。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） お尋ねの件でございます。人口の減少、少子高齢化などの影響によりまして、飯綱町には50の集落と言いますか、区・組があるわけですが、うまく運営されている区は別といたしまして、やはり小さい区・組におきましては、役員のなり手不足などにより、組織そのものがうまく機能していないという悩みがある現実がございます。

それらを踏まえまして、町ではそのような区や組を助けることができないかということにまず着眼して、新しい組織というものが考えられないか、これを考えたわけでありまして。今まで

の区代表者会議において、その中で案をお示しと言いますか、考えを申し上げたところでございます。

その案でございますが、それは地域との繋がりを持つというのが1番肝心であるということから、小学校を核といたしまして、子ども、その父母、祖父母の3世代の繋がり、または範囲の分かりやすさ、それと小学校との連携の強化が図りやすい、こういうような観点から、旧小学校区単位とか、消防の分団単位、これが地域協議会とすれば考えられるのではないかと、組織とすれば考えられるのではないかとということで、町内を8ブロックに分けられればということをお話申し上げたところでございます。

そんなようなことでございますけれども、平成28年度から動き出したわけですが、たまたま企画課の方で新たな集落創生事業というのが動き始めておりますので、あっちもこっちもというわけにはいかないもので、まずは集落創生、企画課の動きを踏まえながら、今後検討してまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（清水満） 原田議員。

○13番（原田重美） この協議会設置というのは、いつ頃ぐらいを目途にしていますか。

○議長（清水満） 原総務課長。

〔総務課長 原章胤 登壇〕

○総務課長（原章胤） 先ほども申しました、基本的には企画課の集落創生事業、これの進行を踏まえまして、進捗状況によって考えていきたいということで、いつ頃という時期は今のところは未定でございます。

○議長（清水満） 原田議員。

○13番（原田重美） 区・組の再編というようなことも、なかなか難しいという流れにおいては、地域の連携したかたちでの動きという意味があると考えますけれども、1つの考え方ですが、やはり今、住民の皆さんの中にも自分たちの地域は自分たちで守ると、こういう意識を持ってもらわなければいけない要素もあるのではないかと思います。これらをしっかり啓発する中で、行政は支援するようなシステムにしていって欲しいと思います。たぶん、いろいろなことを町

としても考えておられるわけですが、8組織というような想定もあるようですが、協議会を区・組をベースにした組織として、これは存続させるとしても、その上で1ないし3、4の協議会を設定していくというようなかたちでの地域連携はどうかのまいろうかと思ひます。

協議会は、いわゆる区・組の悩み、あるいはそれら課題、これらを連携して、論議して解決策を探っていく、こういう事業展開を是非進めて欲しい。

それからもう1つ、例えば、町民運動会にも出られない、各集落の公民館の事業も非常に寂しくなっているのが実態だと思ひます。そこで、これらの協議会を単位にした小さな枠組みを、例えば3つないし4つ、1つにしたらその協議会として公民館の対抗競技に出られるとか、秋祭りもそのうちに若手の皆さんがなかなか確保できないということになってくると、これらの共同実施とか、あるいは各種イベントの開催を協議会事業としてみんなで盛り上げてく、このようなことが是非できるようなかたちになっていけば良いという思いをもっておりますが、最後にお聞きしておきたいと思ひます。

○議長（清水満） 峯村町長。

〔町長 峯村勝盛 登壇〕

○町長（峯村勝盛） 何回か答弁をさせていただいておりますけれども、いわゆる10軒、15軒という小さな組や区があったり、一方でや福井団地のように700戸近いところもあったり、このアンバランスの世界の中で、もう少し広い範囲で一定のスケールを持った組織にしたいというのは、ある意味、行政側の都合の良い判断かもしれませんが、どうもうまく進まないというのは、それを望んでいる地域もあれば、望んでいない地域もあるという中で、私はやはり、いろいろな地区へ出てお話をする機会が非常によくありますので、そんな折にでも、本当に皆さんの方向としてはどういふ組織が具合良いのか、そこら辺ももう少しお聞きする中で、検討していかなければならないと思ひています。

願わくば、地元の方でもこれではやっていけないから何とか考えて欲しいというような状況になってこないと、本当の意味で切実とした組織の再編というかたちにまでは、なかなか進まないというような思いもありますけれども、ただ、今、集落の創生事業で、逆に集落をもっと

活性化していこうというのもやっておりますから、そのような中で、やはりもう少し時間を掛けてあるべき方向を定めていきたいと思っています。

○議長（清水満） 原田議員。

○13番（原田重美） 集落創生事業の関係で、今年予算でおそらく16、7億の事業費が創生事業で盛られています。この関係については、企画の方では特別タッチしている事業はないですか。

○議長（清水満） 徳永企画課長。

〔企画課長 徳永裕二 登壇〕

○企画課長（徳永裕二） お答えさせていただきたいと思います。地方創生事業、これは町が主体で取り組んでいる事業でございます、議員おっしゃるとおり、30年度も予算を計上させていただいておりますが、集落創生事業、こちらは各区や組が主体となって行っている事業でございます。

この取組の状況を若干申し上げますと、5月末現在で5地区が新たに計画を作成する取組を始めている状況でございます、既に計画策定済みの地区が6地区ございますので、50集落中11地区が計画を策定中、または策定済みという状況となっているものでございます。よろしくお願いいたします。

○議長（清水満） 原田議員。

○13番（原田重美） 集落再生、これは正に我々も論議しております、議員のなり手不足にも影響してくる事業にも繋がっていきますので、是非、行政とも連携しながら、今後とも論議をしていければと思っておりますのでよろしくお願いいたします。以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（清水満） 原田重美議員、ご苦勞様でした。

これより暫時休憩に入ります。再開は11時15分とします。

休憩 午前11時 2分

再開 午前11時15分